若越郷土研究　六十八巻一号

福井県における郷土研究・郷土誌の動向　令和四年度分

本会事務局
福井県立図書館郷土資料グループ編

はじめに

令和四年度は、終息の兆しを見せないコロナ禍にあっても、ウイルスの特徴や感染防止対策への理解が進んだことにより、各文化施設は前年より内容拡充を図りつつ展示やイベントを行ってきた。このような中、令和四年十月に開館した県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館では、開館から五十七日目で来館者五万人を突破するなど注目を集めた。福井県郷土誌懇談会は、創立七十周年記念として会の歩みをたどる企画展を開催。また、三年ぶりにブックレット『福井県の方言』を岩田書院より刊行し、記念講演会を県立図書館と共催した。

以下、令和四年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土研究・郷土誌の動向とする。なお敬称は略した。

一　歴史・地域史・史跡調査報告書

雑誌『歴史研究』第七〇四号は、戦国時代の武家官位を特集し、朝倉孝景や朝倉義景、丹羽長秀についての論考を掲載した。『地域別災害年表事典 中部編』（日外アソシエーツ）は、福井県を含む中部九県の一五〇年の災害を県別にまとめたもの。赤澤徳明氏退職記念論集制作委員会『高山流水』は、元県埋蔵文化財調査センター所長の氏を慕う県内外の研究者四十六名の論考を収載。福井県を含む十四県が共同研究を目的として七年前に結成した古代歴史文化協議会は、講演会の記録として『刀剣が語る古墳時代の幕開け』をまとめた。高木久史『戦国日本の生態系』は、戦国時代の越前を題材とし、生態系と社会システムを一つの系としてとらえ、戦国の動因を描き出した一冊。

『福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館 Guide Book』は、本年開館した同館の展示解説書として作成された図録。ほかに、都市機能の比較検討を目的として実施した調査研究事業の成果を『戦国城下町一乗谷の都市構造解明―公的空間に着目して―事業報告書』としてまとめた。福井市立郷土歴史博物館『いまに残る一乗谷の記憶』は、同館の特別展図録。戦国大名朝倉氏とともに滅亡した城下町一乗谷に由緒を持つ寺院など、現在の福井市街地に残る一乗谷の痕跡をたどる。村の歴史懇話会編『温故叢談 十八』は、「ふるさと文殊」を特集する。福井市東郷公民館『東郷の字と云われ』は、福井市東郷地区の小字名の由来などをまとめたもの。『福井の市民運動』（大久

保公夫）は、空港拡張中止運動や中池見湿地保全運動の記録とともに市民オンブズマン福井の活動事例を紹介。日本地名研究所『第四十一回全国地名研究者一乗谷大会資料集』は、十一月に「越前の地名と風土」をテーマに開催された講演や報告のレジュメ集。関章人『あわら市北潟の暮らしと歴史』は、郷里の先人の暮らしや歴史について発表してきた文章をまとめたもの。坂井市教育委員会文化課丸岡城国宝化推進室『丸岡城学術調査資料集 第二集』は、天正二年～元禄八年の丸岡城に関する文献を集めたもの。あわら市郷土歴史資料館『あわら市指定文化財（有形文化財／彫刻）西国三十三カ所観世音保存修復報告書』は、修復事業の一環として刊行された。岡田健彦『唐太日誌 翻刻版』は、大野藩士・早川弥五左衛門による唐太（現サハリン島）開拓の事前調査の記録を翻刻したもの。鯖江郷土史懇談会『会誌 第三十号』は、鯖江市を中心とする郷土の歴史・文化に関する論考九点を収録。東井忠義『田村のあゆみ 郷土史』（鯖江市田村町）は、田村の歴史や先人の歩みをまとめたもの。越府史学会『越府史攷 第二号』は、越前市に関係する史資料等についての論考五点を収録。越前市北日野公民館『きたひの探訪』は、地区を構成する十五集落別に歴史や伝統行事などを調査し一冊にまとめたもの。越前市は『越前市史 資料編三 中世二』を刊行、天正元年から慶長五年までの越前市域に関係する古文書三四六点を収録。そのほか『越前市史 別冊雑書留』も刊行、金森左京家江戸留守居役による雑記帳を収録した。山本一善『今庄昔日』は、昭和三十七年の北陸トンネル開通前後の今庄の概況を、現在の様子も織り交ぜて紹介したもの。日本海地誌調査研究会『会誌 第二十一号（令和四年度）』は、敦賀に関連する地誌等の調査研究論考四点を収録。敦賀市立博物館『敦賀藩物語』は、小浜藩の支藩として誕生し、鞠山藩と通称された小藩の歴史を紹介した特別展の図録。多仁照廣『敦賀藩』（現代書館）は、「シリーズ藩物語」の一冊として、福井県域では「福井藩」に次いで刊行された。歴代藩主たちが幕府の要職に就いた敦賀藩の歴史と文化、藩風を丁寧にひも解く。橋本昭三『白木の里 二』（敦賀市）は、敦賀市白木地区在住者による地誌の続刊。県立若狭歴史博物館『中世若狭の「まち」』は、中世後期の小浜・敦賀の都市の成立や発展の過程を紹介した特別展の図録。若狭町上吉田区は、住民への聞き取りや古文書などをもとに集落の歴史や暮らしを『上吉田集落誌』にまとめた。『鳥浜貝塚研究 六』（福井県立若狭歴史博物館）は、村上昇「鳥浜貝塚出土の縄文時代草創期土器の報告」を収載。小浜古文書の会『小浜藩士津田葛根の上国御供日記・羈旅箚記』は、小浜藩士が藩主の御供をした際に作成された半帳を小浜古文書の会が翻刻・刊行したもの。『高浜町史 現代編』（高浜町教育委員会）は、『高浜町誌』補完版第三弾であり、昭和六十年から平成二十七年までの高浜町の出来事や変遷に解説を付したもの。

そのほか主な発掘報告書に『開発遺跡・高柳遺跡』『福井城跡（第一・二分冊）』『寄安・栗森遺跡 二』『舟寄本廟遺跡・舟寄築山遺跡』『北横地中才遺跡』（教育庁埋蔵文化財調査センター）、『一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 二十一』（県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館）、『河

増遺跡二』（福井市教育委員会）、『越前市内遺跡発掘調査報告書』（越前市教育委員会）などがある。

二　目録・人物・地図・ガイドブック

高橋榮輔『福井藩君臣の幕末維新』（ブイツーソリューション）は、幕末維新期の政争史を踏まえながら、松平春嶽・橋本左内・村田氏寿の事跡を辿る。河村昭一『若狭逸見氏の歴史』（砕導山城跡保存会）は、高浜町で開催された講演会の内容をまとめたもの。若狭逸見氏は、戦国期に高浜の基礎を築いた。志村平治『相模朝倉一族』（戎光祥出版）は、越前朝倉氏の支流一族の変遷を解説する。松岡秀隆『横山英太郎片影　私家版』は、ＴＹＫ式無線電話を発明した横山英太郎の生い立ちや業績の概要をまとめたもの。越前市武生公会堂記念館『土肥慶蔵』は、越前市出身で日本の近代皮膚科学を確立した医学者の生い立ちや功績を紹介した特別展の図録。本宮ひろ志『猛き黄金の国　由利公正』（集英社）は、由利公正の伝記漫画。関裕二『継体天皇　分断された王朝』（新潮社）は、大胆な考証で継体天皇の正体に迫る論考。平野治和『平野治右衛門家の四〇〇年　古文書千六百点から伝わる先祖の息吹』は、旧和泉村川合の旧家に伝わる古文書の調査をもとに、同家の歴史をたどった一冊。調査後、古文書の大部分は大野市に寄贈された。佐々木長淳研究会『内務省初期養蚕政策と佐々木長淳』は、内務省勧業寮農務課内藤新宿試験場養蚕掛に就いた佐々木長淳の養蚕政策を再検証しまとめたもの。黒田基樹『お市の方の生涯』（朝日新聞出版）は、信頼性の高い史料を中心にお市の方の生涯を辿った一冊。角鹿尚計『橋本左内　人間自ら適用の士有り』（ミネルヴァ書房）は、少年時代から安政の大獄で刑死に至るまでを一次史料に基づき考察した労作。県文書館は、松平文庫「新番格以下」の一部を翻刻した『福井藩士履歴　十一』を刊行。県立こども歴史文化館『海を渡った留学生たち　絵本編三』は、福井市出身の国文学者・芳賀矢一らを子ども向けに紹介した絵本。

『ランドスケープ遺産百選　中部編　三』（日本造園学会・中部支部）は、中部地域の造園に関する歴史的遺産の代表的な場所を取りまとめた三冊目。瓜割の滝など県内九か所を紹介する。『月刊地図中心』通巻五九七号では、特集「福井県の博物館は多士済々」が組まれ、各館の見どころが紹介された。『みなと・つるが・いまむかし　改訂版』（観光ボランティアガイド敦賀）は、敦賀の観光名所をまとめた第一巻と敦賀ゆかりの人物や遺跡を紹介した第二巻の二冊について、構成や内容を見直し一冊にまとめたもの。『白山石徹白道神鳩避難小屋日記』（郡上市）は、避難小屋を利用した登山者たちの記録などをもとに五〇年の歩みをまとめたもの。長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会『海を越えた鉄道　世界へつながる鉄路のキセキ』は、福井県と滋賀県をつなぐ鉄道遺産回廊を各地の見どころとともに写真で紹介する。

三　各分野団体史

各分野団体史では、閉校記念誌である福井県立武生工業高等学校『六十三年誌』、北陸学園『百四十年記念誌』、福井県日本中国友好協会『福井県日中友好協会結成七十年史』、福井県スポーツ協会・創立七十五周年記念『福井県スポーツ史』、福井県私立学校連合会『七十周年記念誌 あゆみ』、南条山の会『五十年の歩み 創立五十周年記念誌』などが刊行された。

四　宗教・経済・教育・民俗

真宗仏光寺派御伝絵・御伝文研究会『御伝絵詞証義編［巻之一～巻之六］』は、北府光善寺の善養師が一七八一年に制作した『御傳繪詞證義編』を同会が七年かけて読み下したもの。高尾察良『称念寺再建史』（称念寺）は、大正時代に称念寺の再建を果たした高尾察玄師のあゆみをまとめたもの。

南保勝『地域再生の未来像 越前からのメッセージ』（晃洋書房）は、越前をモデルに、地域固有の資源から地域再生のあるべき姿を考える一冊。杉山友城ほか『新しい〈地方〉（ふるさと）を創る』は、人口減少時代において福井を事例に地方の可能性を引き出すための方法を模索。

県教育総合研究所教育博物館は、学制から現在までの学校教育の変遷をたどる企画展を開催。その際に作成した歴史学習漫画風の解説パネルの内容を『学校一五〇年物語』として冊子化。

「時空を超えて～五十八年前の絵との対話」実行委員会『時空を超えて』は、鯖江市出身の美術教師・故木水育男が指導した児童生徒たちの絵をまとめた作品集。県立大学は『地方公立大学の挑戦』で、四大化した際の経緯をまとめた『福井県立大学の挑戦』（稲澤俊一著）を部分採録するとともに、公立大学の使命と役割について再考する。中森一郎『異質のものに対する理解と寛容 福井県立若狭高等学校の理念と学校改革』（シングルカット）は、同校に校長として赴任した著者による三年間の実践記録。

須川建美『写真で綴る若狭南川流域の民俗行事』（若狭路文化研究所）は、著者が長年調査・撮影し続けた南川流域集落の民俗行事の記録写真集。平成二十五年に発足した河合の歴史を探るロマンの会は、同会の活動をもとに三年かけて『ふるさと河合の昔のいろいろ話　河合の民話・伝説編』をまとめた。昭和五十四年に結成したつるがの山車保存会は『つるがの山車（やま）』で氣比神宮の例大祭に巡行する山車とその祭りについて写真を多用して紹介した。敦賀市立博物館・みなとつるが山車会館『敦賀の山車総合調査報告書 歴史・山車本体・懸装品編』は、平成二十九年度から令和四年度まで実施された総合調査の報告書。『福井の戸祝いとキツネガリ調査報告書 記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財』（福井県教育委員会）は、小正月に若狭地方で行われる、祝福の要素と害獣払いの要素を併せ持つ伝統行事の調査報告書。阿部照伸と川原茂は、『勝山市民俗誌附文化財』（昭和三十三年刊）に写真・注釈等を加

え再編集した『勝山人の民俗誌 令和五年編集版 プレイバックかっちゃま』を刊行。

五　自然科学

北潟湖ハクチョウを見守る会『あわら市北潟コハクチョウ飛来の記録』は十四年間の記録をまとめたもの。森勇一・田口一男『東海・北陸のジオサイトを味わう』（風媒社）では、県内のジオサイトを紹介し地学の面白さを伝える。『図説ラムサール条約登録中池見湿地』（ウェットランド中池見・ナチュラリスト敦賀緑と水の会）は、中池見湿地が該当する国際登録基準についての図説資料を取りまとめたもの。有馬達也『石が語るふくい』（福井市自然史博物館）は、石と人との歴史を紹介した特別展の解説パンフレット。柳沢芙美子は『天然痘との闘い 三』（岩田書院）に「福井藩・鯖江藩の種痘と村部への出張種痘」「福井藩町医笠原良策の門人帳「天香楼登門題名」」、『史料・中部日本の種痘』（佐賀大学地域学歴史文化研究センター）に「土屋得所の門人帳「修贄録」」を発表。土屋得所は、種痘に取り組んだ鯖江藩医。

井階友貴『赤ふん坊やと学ぶ！』（金芳堂）は、高浜町のマスコットキャラクター「赤ふん坊や」のマンガを通して地域医療の問題を取り上げ、解決策を探る一冊。総合地球環境学研究所 Eco-DRR プロジェクト『むかしのみずべは』は、美浜町・若狭町の子どもたちが、地域の人に聞いて描いた「昔の水辺の風景画」をもとに作成した絵本。福井城址活用検討懇話会『未来を描こう、県民の城』は、同会の提言書。出口翔大『福井の哺乳類大図鑑』（福井市自然史博物館）は、特別展「あつまれ！福井の動物たち」にあわせて刊行。県内に生息あるいは記録のある哺乳類六十六種を紹介する。梅村信哉『足羽山の昆虫観察ガイドブック』（福井市自然史博物館）は、全国科学博物館活動等助成事業の助成を受けて刊行。平成二十五年度から開始した「足羽山総合調査」の成果を基に、足羽山に生息する多様な昆虫たちを紹介する。

六　工業・土木・建築・家政

児玉忠『戦後福井県都市計画の軌跡』（晃洋書房）は、戦後福井県の都市計画事業についてまとめた労作。市川秀和『追悼小長谷義一先生』（福井工業大学市川研究室）は、戦後福井の地方都市計画に取り組み、令和二年に逝去した建築家の業績をまとめたもの。『越前の民家再生』（ダイワレジデンス）は、ダイワレジデンスが三十四年間で百棟あまり手がけた中から二十二棟の再生事例を選び紹介したもの。『北陸の名城を歩く 福井編』（吉川弘文館）は、「名城を歩く」シリーズの一冊。県内から精選した名城五十九を越前・若狭に分け、豊富な図版を交えながらわかりやすく紹介する。永江寿夫『町並みの保存と創造』（雄山閣）は、熊川宿の町並み保存に関わってきた著者が、文化財の継承における保存と創造について論考したもの。佐伯哲也『若狭中世城郭図面集 一』（桂書房）は、

若狭東部編〈美浜町・若狭町〉として五十四城の詳細な平面図を掲載する。国京克巳建築設計工房『福井県指定有形文化財 南専寺山門修理工事報告書』（南専寺）は、令和二年度から四年度にかけて行われた修理事業の一環として刊行されたもの。福井南高等学校原子力探求グループ『福井県高校生の原子力に関する意識調査二〇二二』は、県内と東京都内の高校二年生約二千人から得た原子力に関するアンケートを分析したもの。進士五十八編著『福井城址と風景まちづくり』（福井県立大学出版部）は、公開講座の内容を書籍化したもの。南越前町教育委員会事務局は、「南越前町文化財調査報告書 九」として『旧京藤甚五郎家住宅調査報告書　近代和風建築等総合調査事業』をまとめた。

金津創作の森美術館で開催された企画展の公式ガイド、小倉ヒラク『発酵ツーリズムほくりく』（ｆｕプロダクション）は、北陸三県各地の文化や風土を「発酵」という視点からひも解く一冊。

七　産業・芸術・言語・文学

『杉箸アカカンバ物語』（仁愛大学人間生活学部子ども教育学科）は、敦賀市杉箸地区の伝統野菜「杉箸アカカンバ」の歴史と特徴を大学生たちが絵本としてまとめたもの。小坂康之・別司芳子共著『宇宙食になったサバ缶』（小学館）は、小浜の高校生が作ったさば缶が宇宙食として使用されるまでの十四年を、指導教師と県内在住の児童文学作家が子ども向けに描いたもの。県立歴史博物館『百貨店の近代』は、日本と福井の百貨店の歴史をふり返り、百貨店と人びととのつながりの歴史を紹介した特別展の図録。はたや記念館ゆめおーれ勝山『近代福井の羽二重精錬』は、フォーラム及び関連展示の記録集。輸出絹織物の価値を高めるために施された工程に焦点をあてて紹介。

県教育委員会『文化財調査報告 第四十三集』は、平成三十年度に指定した有形・無形民俗文化財十二点の調査報告書。毛利茂則『福井県立図書館庭園 四季のうつろい』は、県立図書館庭園の四季折々の風景を撮影した写真集。土田ヒロミ『Ａｇｉｎｇ 一九八六～二〇二一』は、写真家が三十六年間自身を撮影し続け、撮りためたものをまとめた写真集。津田寛治『悪役』（福井新聞社）は、福井市出身の俳優による自叙伝やエッセー、インタビューなどを収録した一冊。県陶芸館『近世の福井を彩ったやきもの』は、近世の越前焼の名品を展示した春期企画展の図録。同館『いにしえの陶工とあそぶ』は、桃山時代のやきものや桃山陶器が後世に与えた影響などを紹介した夏期企画展の図録。同館『ジャクエツ・コレクションの現代陶芸』は、県立美術館が所蔵するジャクエツ・コレクションの陶磁を展示した秋期企画展の図録。『ふくいの御乗物』（福井県立歴史博物館）は、県内に今も伝わる様々な乗物（移動手段として使用された上級の駕籠）を紹介した夏期特別展の図録。

東哲平『常勝軍団の作り方』（竹書房）は、敦賀気比高等学校硬式野球部監督による指導論。

松倉昂平『福井県嶺北方言のアクセント研究』（武蔵野書院）は、

福井県方言のアクセントの詳細を明らかにした研究書。福井県の方言についての初めての概説書『福井県の方言』（岩田書院）は、加藤和夫ほかが執筆し、福井県郷土誌懇談会が編集した。丸岡文化財団『日本一短い手紙「こころ」』（中央経済社）は、令和三年度一筆啓上賞入賞作品を中心に収録した一冊。

細谷龍平『幸福の足袋』（ウララコミュニケーションズ）は、明治時代に福井藩に招かれた米国人講師ウィリアム・エリオット・グリフィスの半生をまとめた伝記小説。

八　歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。県文書館は「「錦之丞の元服　～錦之丞、慶永になる～」「地味にすごい!?　明治時代の学びと学校」「異能の軍学者・井原番右衛門　―忍者・計略・まじない―」、県立歴史博物館は「越の大徳（こしのだいとこ）泰澄大師」「ふくいの御乗物」「百貨店の近代～文化と娯楽の花咲くところ～」、県立若狭歴史博物館は「中世若狭の「まち」」、県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館は開館記念特別展「発掘調査の歩み」「東山文化と朝倉文化」、県立美術館は「春色爛漫　花の宴　培広庵コレクション　ザ美人画」、県立こども歴史文化館は「DOKI～楽しい考古学のススメPart1」、県恐竜博物館は「比べて楽しむ古生物の世界」、県陶芸館は「近世の福井を彩ったやきもの」、県年縞博物館は、若狭三方縄文博物館と合同で特別展「掘る！　―未知の世界を拓く掘削技術―」、福井市立郷土歴史博物館は「みんなで選ぶ！博物館の宝」、敦賀市立博物館は「敦賀藩物語」、勝山城博物館は「大津絵の美」、あわら市郷土歴史資料館は「ずっと、道があった」をそれぞれ開催。なお、みくに龍翔館は、坂井市龍翔博物館として令和五年六月の開館を予定している。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、遺漏についてはお許しいただきたい。

（事務局　吉川千鶴）